

J E C の源流と歴史的遺産 5

近世における四つの流れと J E C

一宮基督教研究所 安黒務

宗教改革から近世へ

今回は、「16世紀の宗教改革運動」の子孫としての J E C をみました。今回は、その発展過程の中で生み出された次の四つの流れ（あるいは信仰類型とも言える）ⁱと J E C の関係をひもといってみましょう。

宗教改革における四つの流れ

ルター派：ルター派は前回ふれましたマルティン・ルターと、協力者メランヒトンを中心に、ドイツから広がっていった流れで、信仰義認の教理を中心に据えた「**救済論的**」また「**キリスト論的**」な神学に特徴があります。

カルヴァン派：ルターに次いで登場してきたのがツウィングリとジャン・カルヴァンです。改革派とか長老派として知られているスイスを中心として広がっていった流れで、聖書論を基盤にした「**有神論的**」また「**包括的・体系的**」な神学に特徴がありますⁱⁱ。

アナバプテスト派：第三の流れは、1523年にスイスのチューリッヒを中心として始めましたアナバプテスト派と呼ばれている流れで、初代教会への復帰と復元を目指す「**原初主義**」に特徴があります。

英国のプロテスタント：第四の流れは、1533年にカトリックから独立した英国のプロテスタントです。英国国教会は、カトリックからプロテスタント(カルヴァン主義)との間を揺れ動いた後、儀式ではカトリック、信仰ではプロテスタントという“中道、中間の立場”に落ち着きました。しかし、その**中途半端な改革に異議を唱える人々**によって新たな教派が生まれていきました。

J E C の信仰は、ルター派のように「信仰義認」を中心にしており、カルヴァン派のように「包括的・体系的」な組織神学を大切にしており、アナバプテスト派のように「初代教会のあり方」を貴重なものと考えています。それぞれの流れの良き特徴を吸収し内に含んでいます。歴史的に直接のつながりは英国における宗教改革にあります。

会衆派ピューリタン：会衆派としての J E C のルーツ

バプテスト教会は、**英国における宗教改革の運動**の中から生まれました。英国における宗教改革は政治的理由(上からの改革)によって始まったために、教会内において改革運動が起こり、それがいわゆる**ピューリタンの運動**として大きく発展しました。そのピューリタンは三つのグループに分けて考えることができます。第一は国教会ピューリタン、第二は長老派ピューリタン、第三は**会衆派ピューリタン**です。この会衆派ピューリタンは、礼典だけの改

革に満足せず、**会衆政治**によって教会を改革しようとしてきました。

JECが教会政治のあり方として「会衆制」をとっていることの歴史的ルーツはここにあります。

バプテスト教会の礎：バプテストとしてのJECのルーツ

やがて英国国教会から離れて教会をつくろうという運動が起こり、「**三つの原則**」- 信徒は自由意志に基づいて教会の会員となる(**自発に基づく原則**)、教会役員は会員によって選ばれる(**会衆制**)、どの集会も、他の集会の上に権威を振るってはならない(**地方教会の独立自治**)が明らかにされ、やがて「**明確に新生した者のみに、浸礼のバプテスマを授ける**」バプテスト教会の礎が築かれていくこととなりました。

JECがスウェーデン宣教師から継承し、“空気のように”自然なかたちで受けとめている「**教会観**(教会はどうあるべきかについての考え方)」の歴史的ルーツはここにあります。(このバプテストの信仰は、後にアメリカ全土に広がり、政教分離、信仰の自由、個人の尊重といった信仰も広く受け入れられ、今日では二千万人を超えるアメリカ随一の教派となっています。)

スウェーデン・バプテスト教会の始まり

1835年、**ニールソン**という一人のスウェーデン人の船員が、激しい台風に苦しめられながらニューヨークに着きました。死と神の裁きについて深く考えさせられた彼は、上陸するとただちに教会を訪ね、そこで福音を聞き回心しました。回心後、彼は熱心に伝道を始め、特にスウェーデンからの移民に伝道しました。その後スウェーデンに帰ってホーランドで**スウェーデン最初のバプテスト教会**を設立し、その教会の牧師となりました。

スウェーデン・バプテスト教会の幅広い体質はJECの中にも

スウェーデン・バプテスト教会の流れは、信仰的には**敬虔主義的なバプテストの信仰**の特質を主流とし、神学的には**穏健なカルヴァン主義**に立つ者が多いのですが、アルミニウスの信仰の流れをくむ者も少なくありません。排他的ではなく、聖書信仰にたちながら他との協力を大切にしていますⁱⁱⁱ。

カルヴァン主義では「**神の主権**」という概念を中心に神学の体系的整合性を大切にする特徴があり、それが「**予定論**」を結実させています。それに対して、アルミニウスは「**人間の自由意志**」を重視して予定論を修正しようとしてきました。しかし、ラムという神学者は「その相違点は、実際に両者が主張しあっていたほど大きくはなかったというのが実情ではなかろうか。**神は常に神学よりも大きいし、聖書は私たちの組織的成文化よりもずっと豊かで大きい。**」と総括しています。スウェーデン・バプテスト教会のふところの深い、幅広い体質は、オレプロ・ミッションを通してJECの中にも受け継がれています。

-
- i 宇田進「福音主義キリスト教と福音派」いのちのことば社、pp.88-96
 - ii 渡辺公平「弁証学講義要綱」講義資料、pp.1-7
 - iii 日本バプテスト教会連合「信徒手帳」、pp.69-75